

2014

第1回

福岡県木造・木質化
建築賞



ご挨拶

森林は、木材の供給はもとより、豊かな水と空気を育み土砂災害を防止するなど多面的機能を有しており、近年その役割はますます重要性を増しています。また、木材は再生可能な地球環境に優しい、地域の貴重な資源です。

木材の利用を進めることは、森林の適正な整備が促され、県民の皆さんの安全安心な暮らしにつながるとともに、林業の振興にも貢献します。

このため、県では交番の木造化や県立学校体育館の内装木質化、木製ガードレールの導入など、県有施設や公共土木施設での木材利用を積極的に進めています。

さらに県産材の需要拡大をより一層進めるため、今年度新たに、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を表彰する「福岡県木造・木質化建築賞」を創設いたしました。



福岡県知事
小川 洋

初開催となった今回、木材の温かさや木目の美しさを感じさせる多数の優れた建築物の応募があり、選考委員会の厳正な審査によって、「木造の部」・「木質化の部」とともに素晴らしい建築物が選定されました。受賞建築物はいずれも、木造・木質化建築物の広がりを大きく期待させるものとなっています。

県では、平成25年3月に策定した「福岡県森林・林業基本計画」のもと、持続可能な林業経営の確立と健全な森林づくりを進めるため、今後も県産材のさらなる需要拡大に取り組んでまいりますので、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

選考委員の皆さまのご尽力に感謝申し上げますとともに、受賞者ならびに応募いただいた皆さまの、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

総評

日本には、木造を中心とした建築の歴史があり、数百年を超える木造建築物も数多く存在します。

しかし、戦後は火災等の危険性から都市部の木造建築が制限され、戦中戦後の乱伐により資源的に

国産材が枯渇し、外材に多くを委ねてきました。ここにきて技術の進歩と森林資源の充実から、いよいよ日本の木造建築の復活の兆しが見えてきていますが、木づかいの技術や仕組みが継承されてこなかったため、大型建築物をはじめとした木造建築の建設が今ひとつ伸び悩んでいる状況です。

樹木は光合成によって大気中の二酸化炭素を取り込み、木材の形で炭素を固定しているため、木材の利用は大気中の二酸化炭素削減に有効だと言われています。また、木材は有機物であり、断熱性や調湿性など生活空間の中で素晴らしい機能性を発揮します。

一方、有機物であるが故の使い方の難しさがあることも確かです。そこで、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を表彰することで、建築関係者や県民の木材利用に対する関心が高まり、木材のさらなる利用促進につながるものと期待されます。

第1回福岡県木造・木質化建築賞には木造の部44点、木質化の部9点、総数53点の応募がありました。



福岡県木造・木質化建築賞
選考委員会
委員長 藤本 登留

第1次選考では、6名で構成する選考委員会によって書類審査を行い、協議および投票によって木造の部6点、木質化の部3点、合計9点の建築物を選出しました。木材の魅力を醸し出す多くの建築物からの選考は難しく、選考委員による投票もばらつき、現地審査対象に漏れた多くの建築物にも票が入っていたことから、素晴らしい木造・木質化建築物が県内に数多く創りだされていることが分かりました。

第2次選考の現地審査は、12月25、26日の2日間をかけて実施しました。いずれも建築主、設計者、物件によっては施工者にも立ち会っていただき、様々な説明を受けました。木の良さを前面に出した建築物ばかりで、図面や写真だけでは感じ取れない木の空間の素晴らしさを実感できました。建築主からは、住み心地の良さなどの意見だけでなく、木材に対するこだわりがあるからこそ木材調達に苦労したといった実体験も聞くことができました。このような貴重な意見を聞くことで、県産材利用拡大に向けての大きな課題も浮き彫りになった思いがします。

最終選考は、現地審査直後の選考委員会で、各建築物の評価を協議した後に、投票によって選出しました。いずれも特徴的な建築物であり、比較すること自体が難しいといった意見もありましたが、最終的には木の良さや特徴を活かした建築で、県産材需要拡大の啓発に資する視点で各賞を選考しました。

公共建築物、社寺建築物、そして戸建てや集合住宅と、バラエティーに富んだ素晴らしい第1回福岡県木造・木質化建築賞受賞建築物をご紹介します。



福岡県木造・木質化建築賞

【表彰の目的】

県では、平成25年3月に策定した「福岡県森林・林業基本計画」のもと、持続可能な林業経営の確立と、健全な森林づくりに取り組んでいます。

中でも、県産材シェアの拡大を目指して住宅や公共建築物等における木材の利用や、県有施設の木造・木質化を積極的に推進しています。

そのような中、県産材の需要拡大を目指し、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し更なる普及啓発に努めるため本賞を創設しました。

【賞の対象】

県産材の需要拡大を図るため、公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

【賞の部門】

木造の部(大賞・優秀賞) 木質化の部(大賞・優秀賞) 奨励賞

【主な選考基準】

- 国産材を積極的に利用している
- 建築物の木造・木質化に波及効果がある
- 国産材の特徴や良さが活かされている
- 国産材の利用を通じて、豊かな暮らしや社会を実現するもの

【選考委員】

役職名	氏名	職名
委員長	藤本 登留	九州大学大学院農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部建築デザイン学科教授
委員	土師 淳志	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	長谷川 彰	西日本新聞社編集局生活特報部長
委員	梶原 秀康	福岡県農林水産部林業振興課長



木造の部 大賞

東長寺 五重塔

所在地:福岡市博多区





撮影：藤本健八

建築主 真言宗別格本山 東長寺
設計者 松井建設株式会社
取締役社長 松井 隆弘
施工者 松井建設株式会社九州支店
執行役員支店長 盆子原 和利
建築物の用途 寺院(五重塔)
構造・規模(階数) 木造(5層)

設計趣旨

本建築は、弘法大師ゆかりの博多東長寺にふさわしい五重塔の計画を進める中で、境内の建物位置を準防火地域の範囲に収まるように配置し、木造の採用を可能とした。木材は国産桧を使用し、構造には金物を極力使用しない伝統構法を踏襲することにより、後世に残る純木造の五重塔を建立するに至った。

構造設計においては、一般の木造住宅等のような壁量による許容応力度設計を行うことが困難であった。そのため、木材のめり込みを考慮した半剛接ラーメン架構にモデル化し、応力解析を行った。継ぎ手・仕口は、国宝・重要文化財を踏襲・検討したなかにオリジナルを加えて全て図面化し決定した。

講評

化粧性や強度で選別した優良な国産桧赤身材を、細部にわたり使用しています。桧赤身材は、日本古来より神社仏閣に使用されており、耐久性が高く加工性も良い美しい木材です。しかし、木材資源が充実してきた現在でも、大断面材料や広幅の板材料が得られる桧は貴重です。材料の調達にも苦労が伺えます。また、伝統構法を踏襲した、後世に残すべき技術を駆使しています。その一方、最先端素材を応用するとともに、独自の接合法を組み合わせることで綿密な構造解析を実施し、地震対策としてこれまでの問題を克服した点で注目に値します。屋根の木組み、塗装、金物等の細部から全景にわたり気が配られ、近くから見ても離れてみても美しく造られています。日本における木造技術のレベルの高さを意匠的に、構造的に示した純木造五重塔です。



木質化の部 大賞

九州芸文館 アネックス2

所在地:筑後市





建築主 福岡県

設計者 株式会社隈研吾建築都市設計事務所

代表 隈 研吾

日本設計・井上・SUEP・産研

設計業務共同企業体

施工者 株式会社古賀建設

代表取締役 古賀康文

建築物の用途 陶芸工房

構造・規模(階数) 木造・地上1階

設計趣旨

当施設は、長年地元の市民に要望されていた、地域密着型の芸術交流の施設である。そのため、建築自体も筑後地方の文化産業に密着した物であるべきだと考えて地元八女産の杉を主要材料にすることにした。また、敷地は新幹線筑後船小屋駅から見て目立つ位置にあるので、直接公園施設を利用しない人々にまで木の魅力を伝えるべく特徴あるデザインとした。

建築では国産杉材を約195m³を利用している。また、家具や建具も含めて徹底的に県産材を使用した。

木造では今までにない持ち送りの梁を三方向展開した架構を採用している。これにより、木造建築の可能性を広げたいと考えた。

講 評

地域密着型の芸術文化交流施設です。一般にこのような公共建築物は年度単位の工事となるため、木材調達が間に合わず、特に水を多く含む杉の大断面材は乾燥時間が不足し、品質確保が困難となる場合も見られますが、この施設ではふんだんに地域の杉材を使用しています。

本建築物の構造は、三角形に切り取られた集成材をエレメントとして組み合わせた屋根梁、それを支える集成材の柱壁や柱でできています。集成材は2~3cm程度の板を乾燥して接着積層した材料であるため、乾燥も容易で材質のバラツキも少ない点で公共物件の材料に適しています。雨水に曝される集成材には保存処理も施され、木材の耐朽性にも配慮されています。

あらかしの天井構造や柱壁がユニークな配置で形づくられ、広々とした公園の中の施設にマッチしており、人々を温かく迎えてくれる魅力的な木質化建築物です。



木造の部 優秀賞

連歌屋の家

所在地: 太宰府市

撮影: イクマサトシ(Techni Staff)



建築主 個人

設計者 原田建築計画事務所 原田 達浩

施工者 相川工務店株式会社 代表取締役 相川 透

建築物の用途 専用住宅

構造・規模(階数) 木造・地上2階

設計趣旨

天満宮の参道そばに位置する木造伝統構法による住宅である。手刻み、小舞竹組、土壁といった伝統技術を採用し、平面の中央に配した8寸角の通柱を中心に、5つの床レベルで構成されている。木組による構造体を意匠として捉え、ダイナミックな木造空間の創出、伝統に捉われないデザインを心掛けた。インテリアは杉と漆喰と土で構成されている。準防火地域等の法的条件の中、歴史ある街で純粋な『木の家』を作るという行為にも、大きな意味があったと考えている。未完成な状態での完成を意識的に行い、家族全員で家をつくる行為は、竣工後も続いており、子ども達が新たにデザインを加えた空間は生々と変化し続けている。これも木の家の魅力であると、この家を訪れる度に子ども達に教えられる。

講評

新建材などを使わず主に杉、桧の無垢材を構造材に使用し、そのほか漆喰壁など自然素材を多用した木造2階建て住宅です。屋内のいくつかの高さに梁を渡して面格子や木質構造をあらわして使うことにより、自由に変化させることができる空間を確保しています。バリアフリーとは真逆なバリアフルな構成で、家中をアスレチックのように活発に過ごすことができます。元気な子ども達を中心とした豊かな生活の場を創り出し、生き生きとしたパワーを感じ進化し続ける“未完成な家”です。

触れて感じる、ほどよい硬さと温かさなど、木がもつ人との相性の良さを効果的に使った、子育てをテーマにしたモデル的な木造住宅です。



木質化の部 優秀賞

篠栗町立篠栗北中学校

所在地: 糟屋郡篠栗町



建築主 篠栗町

設計者 株式会社アキマインダストリー

代表取締役 秋山 篤史

施工者 福岡県広域森林組合、篠栗町建設協力会

建築物の用途 中学校

構造・規模(階数) 鉄筋コンクリート造・地上3階

設計趣旨

既存のRC造校舎を活かしながら、木質化を通じて「教育環境の向上」を図るとともに、篠栗町の森林で育まれた原木を用いて製材した地域材を有効利用することで「持続的な森林づくり」「大工技術の継承」も包括的に考慮した篠栗町独自の学校木質化を提案した。

そのため、実際に同町の森林で伐採する時点からかわり、林業・製材・大工の三者と教育行政関係者が互いの事情を配慮した。生徒の激しい動きに対する「耐久性」、伐採予定林の林齢や材質・製材方法を見定めた「生産性」、木材の特性を活かして将来のメンテナンスを考慮した「施工性」を検討し、安易に標準仕様書に頼らない独自の木質化特記書を定めた。

講評

築30年足らずのRC校舎の教室床、壁材に地域産桧、杉を使用した木質化建築物です。教室内の木質化は健康や精神的効果が期待され、温かみある「教育環境の改善」につながります。今回はさらに「持続的な森林づくり」や「木を活かす技術の継承」も考慮に入れた、町独自の包括的な学校改修を実現しています。地域材から有効に製材、施工するとともに、木材の流通で価格を大きく左右する節等級にこだわらない歩留まり重視の製材品利用を実現したことは、環境教育面でも注目に値します。まさに、地域の教育、森林林業、製材加工、建築設計施工関係者や町民が協力した、未来志向の先進的な取り組みです。



奨励賞 (順不同)



撮影:河野博之

筑紫野の家 現代の『田の字形住宅』

所在地:筑紫野市

建築主 個人

設計者 創新設計 上塘 洋一

施工者 株式会社岩堀工務店 代表取締役 岩堀 博隆

建築物の用途 専用住宅

構造・規模(階数) 木造・地上2階

設計趣旨

設計者も施主も木が大好きである。木に囲まれた空間にいると心身が癒やされ気持ちが落ち着く。伝統的な大工の技術と左官の技術と材料を利用して木の特性を最大限活かした住宅とした。木材は、矢部産の樹齢80年の杉材を地元の木材会社から入手した。また、夫婦が助け合い一生住み続けられると同時に、世代が変わっても永く住み続けられる住まいを目指した。家を作るには、その土地で育った木を使用することが大切であると考えた。

親月木居(しんげつもくきよ)

所在地:北九州市小倉北区

建築主 個人

設計者 俵雅人建築研究所一級建築士事務所 俵 雅人

施工者 上浜工務店 上浜 正裕

建築物の用途 専用住宅

構造・規模(階数) 木造・地上2階

設計趣旨

敷地と同じ気候条件の福岡県産の木を使うことを前提とし、使用した木材は、構造材、下地材、仕上材など全て地域産材である京築の杉と桧のみである。

森林組合に協力していただき、昔ながらの「新月伐採、葉枯らし、自然乾燥」を行った。キッチンやテーブル、ベッド、本棚などの家具も全て地域産材の杉で製作した。



撮影:井生明

東青葉保育園

所在地:福岡市東区

建築主 社会福祉法人若宮福社会 理事長 渡 雅代

設計者 株式会社匠建築研究所 代表取締役 原 啓介

施工者 日建建設株式会社 代表取締役 金子 幸生

建築物の用途 認可保育所

構造・規模(階数) 木造・地上2階

設計趣旨

園児や職員が気持ちよく快適に過ごすことがなによりも重要な施設であるため、構造から内装までできる限り自然素材を利用することとし、材料・工法の選定を行った。構造材・内装材・下地材は全て九州産のものを用いて、地域材利用を意識した。また、材せいが大きいこと・金物を露出させない工法を用いたことで、材料加工に時間を要したが、外部・内部ともに木の表情が表れたあたたかみを感じる建物となった。





Renosmile 『木箱Imaizumi』

所在地: 福岡市中央区

建築主 ふくろう不動産販売株式会社 代表取締役 福添 建一

設計者 福岡中小建設業協同組合

施工者 福岡中小建設業協同組合

建築物の用途 集合住宅

構造・規模(階数) 鉄骨鉄筋コンクリート造

設計趣旨

現在流通している新建材で覆われたマンション空間に無垢材や自然素材を使用し、調湿や空気清浄効果で呼吸する空間、体に優しい空間を提供する。SRCのマンションを感じさせないように既存のSRCの梁型を隠し、活かすよう木仕上げや間接照明を施した。収納には調湿効果を考え内装仕上げを木質化した。木材は耳納杉産直ネットワークにより耳納杉を使用した。

修多羅の家

所在地: 北九州市若松区

建築主 個人

設計者 アトリエ艸舎 鈴木 達郎・鈴木 美奈

施工者 株式会社安成工務店 代表取締役 安成 信次

建築物の用途 専用住宅

構造・規模(階数) 木造・地上2階

設計趣旨

修多羅の家は、海に臨む山の中腹に立地することから、強い雨風や日射しを凌ぐために、大きな屋根を作ることのできる民家型構法が役に立った。

大分・上津江の輪掛乾燥の杉を柱・梁に、徳島・木頭の葉枯らし天然乾燥の杉を床・天井・外壁に使用した。

林業家と協力して、国産材を豊富に利用することを設計の基本として取り組んでいる。



表紙に使われている木材

赤松	くす 樟	ほおのき 朴
山桜	桧	山桑
けやき 欒	杉	栗



2014 第1回福岡県木造・木質化建築賞

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係

TEL092-643-3536

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/mokuzoukettei.html>

この冊子の用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。